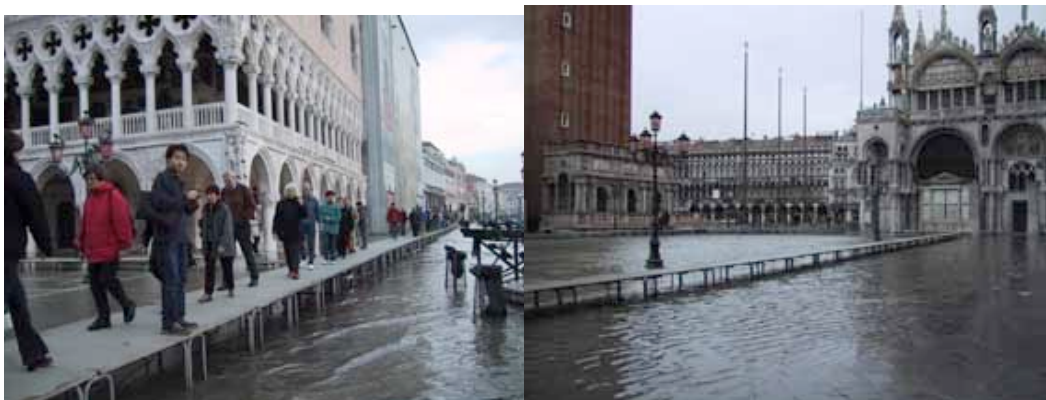


## ヴェネツィアが地図から消える！？

### ～「ヴェネツィア高潮問題」に関する考察～

きっかけは、2007年12月20日に日本テレビで放送された『モクスペ』という番組で取り上げられたジュセリーノ・ノーブレガ・ダ・ルース氏の予言であった。ブラジル人のジュセリーノ氏幼い頃から予知夢を見るという不思議な特質があり、これまでも数々の事件や災害を予言してきた。代表的なものとしては、9.11 テロ事件やサリン事件、長崎市長の銃殺事件などがある。そんな彼が番組で主張したのは「2043年問題」というものである。地球温暖化に伴う、環境破壊が深刻化し、2043年には世界の多くの人が死に至るという内容で、彼はこの問題を、まだ地球温暖化が世間では問題視されていなかった1988年にすでに予知していたという。2043年には人類は危機を迎える。その過程の中に登場するのが、問題のヴェネツィアである。ジュセリーノ氏によれば、2015年には熱波によるヨーロッパ大干ばつが発生し、2028年にはイタリアのヴェネツィアが地図から姿を消すという。

まず地図から最初に消えるのがヴェネツィアというのは、ショックだが少し納得した。ヴェネツィア程、水に接した所はないであろう。事実、この水の都はその水位が年々上昇し続けているという。ヴェネツィアでは、年に数回「アックア・アルタ」と呼ばれる現象が起こっている。「アックア・アルタ」とは、イタリア語で直訳すると“高い水”という意味で、水位が上がって町中が水浸しになってしまうことを指す。「アックア・アルタ」という現象は昔からヴェネツィアには存在していたが、1990年代から急激に回数は増えているという。110cm以上の高潮位の発生回数が、1900年代初頭には10年間で10回以下だったのだが、近年では10年間で50回以上になっており、やはりその回数は年々増加している傾向にある。



写真：アックア・アルタ時のヴェネツィア

「アックア・アルタ」が特に集中するのは11月から3月で、その理由はアフリカの季節風、シロココが原因とされていた。この南からの暖かい風が、アドリア海の水を押し上げる為、満

潮の時期に水位が通常より上がってしまうのである。しかし1900年代から「アックア・アルタ」回数が増え出した原因は、むしろシロッコ以外にある。一つは、ヴェネツィア本島の地盤沈下という可能性。自然の現象で、ヴェネツィア本島は年に約1mm沈んでいるのだそうだ。そしてもう一つが、地球温暖化である。特に1990年以降「アックア・アルタ」が急激に増えた理由は、地球温暖化以外にないと言っても良いだろう。海面が上昇することによって「アックア・アルタ」の回数が増えているのだ。

イタリア政府はこの高潮対策として、都市部の防護とモーゼ計画というものを実施している。都市部の防護は、ヴェネツィアや周辺都市で岸壁、護岸、舗道の嵩上げを行って海水が陸上に乗りにくくすること、そして排水施設を補強して速やかに排水できるようにすることの2つが主な概要である。しかし、ヴェネツィアは歴史的景観が貴重な資源であることから、この景観を保護するために嵩上げの高さがプラス100～110cm以下と制限されている。つまり、ただこのまま嵩上げし続ければ良いというわけにはいかない。そしてもう一つのモーゼ計画であるが、これはアドリア海とラグーンを結ぶ三つの水路、リド、マラモッコ、キオジャヤに鋼鉄製のフラップ・ゲート式可動堰を設置し、高潮時にラグーンへの海水侵入を一時的に遮って、都市部への浸水を防ぐというものである。この計画は2003年に建設を開始し、8年間で完成する予定である。

2008年1月4日、テレビ朝日で「地球危機2008」という番組が放送された。地球温暖化によってどれだけの被害が出ているのか、或いは出るだろうとされているのか。地球温暖化によって起こっている現象についてキャスターの古館伊知郎やその他のゲストと考えるという番組である。その番組の冒頭でも、ヴェネツィアの高潮問題が取り上げられていた。サンマルコ広場が海水に浸かり、観光客までもが長靴を履いている映像が映し出され、観光都市で有名なヴェネツィアだけに、その映像は多くの視聴者にもショックを与えたであろう。

地球温暖化が引き起こす海面上昇。何故こんなことが起こるのかというと、一つは気温の上昇に伴い、海水の温度が上がり、海が膨張しているからである。これが大体原因の50%を占めるが、その他にも山岳氷河の融解や、グリーンランドや南極の氷床が溶け出して海水の量が増えているということが挙げられる。すでに「アックア・アルタ」が頻繁に起こっているということからも見てとれるように、海面は上昇し始めている。今世紀中には最大で59cm上昇すると予測されている。もし50cm以上海面が上昇すると、まず世界の沿岸地域が水没の危機に直面する。ヴェネツィアだけでなく、島国の日本もその影響を大いに受け、結果的に海面上昇によって数億人の環境難民が出ると予測されている。

地球温暖化は先進国や人類が自ら起こした罪である。しかし、この罪は誰にも裁けない。この問題が重大であるということの問題意識は、すでに世界各国で感じているだろうと思う。しかし、問題意識はしているものの、行動を起こさない国も多い。京都議定書から脱退したアメリカ、二番目に二酸化炭素排出国であるにも関わらず参加していない中国や、一人あたりの二酸化炭素排出量が世界最大のオーストラリアなど、二酸化炭素排出量の削減に非協力的な国がいる。正直このレポートで挙げた番組の他にも日本では今現在数多くの地球温暖化問題についてのテレビ番組が放送されていることから、日本が最も地球温暖化問題について敏感になっ

ている国なのではないかとさえ思う。実際、ヴェネツィアの高潮問題についても、ヴェネツィア市民の反応は、「観光客にとっては驚きかもしれないけど、アックア・アルタは昔から起こっていたから」と意外と冷静で、あまり焦りも感じていないようである。これでは、問題がさらに深刻化してもう手遅れという時になってやっと危機感を感じ対策をとるという自体になりかねない。当たり前のことだが、それではもう遅いのである。ジュセリーノ氏が予言していたように、もし2043年に人類の多くが被害に合うというのなら、私たちに残されているのはたったの35年しかないのである。ジュセリーノ氏も言っていたことだが、未来は変えることができる。要は今後、むしろ今現在いかに危機感を持って行動するかということである。

私はイタリアには一度しか訪れたことがない。しかし、例え一度だけでもヴェネツィアの独特な雰囲気は忘れたことがない。車で移動は禁止で、移動手段は徒歩か船かという原始的な所にも魅力を感じるし、何よりサンマルコ広場など美しい建物が多く、水と接して暮らしているという環境もまたとても貴重である。できることなら私はまたヴェネツィアに観光に行きたいとずっと思っている。しかしこのヴェネツィアがいつか地図からなくなってしまうというのは、あまりにも惜しくて、やはり阻止しなければいけないと思う。しかし、私たちの住んでいるところで一体何ができるのか。

自宅住まいの私は、すでに使う時以外は電気を消したり、冷房は18℃以上の設定にしたり、エコバッグを使ったりと色々できることをしているつもりであったが、車に関しては無関心であった。それは、自分がそこまで運転をしていないということもあるが、車に関して自分は専門外で、他の専門の人や利用者がアイドリングストップを行ったりだとかハイブリッドカーにするだとか対策を考えるべきだと思っていた部分もあったからだ。しかし、運転していない私でも車の二酸化炭素排出量を減らす方法は存在した。それは、公共バスの利用をひかえるということ。私の家は、地元の駅までバスで7分ぐらいかかる場所にあるが、歩こうと思えば20分ぐらいで辿り着く。つまり、普段より13分早めに行動し、徒歩で駅に行くことだけで、温暖化防止の対策になるという訳である。バイオエタノールや、京都議定書など、国がとっている対策も様々だが、それ以前に、やはり私たち一人一人が地球温暖化を招いた加害者なのであるということは、私たち一人一人が危機感を持って対策をせねばいけないということではないだろうか。問題意識と行動力が、この問題を解決の方向に導いてくれるのではないだろうか。そう私は感じる。

参考文献：

- 『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』 武田邦彦/著 洋泉社 2007  
『暴走する「地球温暖化」論—洗脳・煽動・歪曲の数々』 武田邦彦 他/著 文藝春秋 2007  
テレビ朝日「地球危機 2008」 <http://www.tv-asahi.co.jp/chikyuu-kiki/>  
日本テレビ「モクスペ」 <http://www.ntv.co.jp/mokusp/contents/071220.html>